

受賞者決定のお知らせ

住友生命社会貢献事業

第2回『未来を築く子育てプロジェクト』

～少子化対策支援3事業 受賞者決定～

応募総数 1,193 通

住友生命保険相互会社（社長：佐藤 義雄）は、子育てしやすい環境づくりを目指し、『未来を築く子育てプロジェクト』を昨年度に発足、「エッセイ・コンクール」「子育て支援活動の表彰」「女性研究者への支援」の公募3事業を通して、子育てに関する様々な活動を積極的に応援しています。第2回目となる本年度は、2008年6月11日～9月30日の期間に展開し、合計1,193通のご応募をいただきました。この度、『未来を築く子育てプロジェクト』実行委員会の選考のもと、下記の通り計42名の受賞者を決定しました。

「エッセイ・コンクール」のみ2008年9月15日で終了

各事業の受賞概要

エッセイ・コンクール

子育ての苦勞を乗り越え、子どもが自立していく過程で周囲が得る気付きや喜びなど「子育てのすばらしさ」が伝わる作品として、886点のご応募をいただき、最優秀賞5点、優秀賞20点を決定。最優秀賞の清水徳子さんには、内閣府特命担当大臣（少子化対策）賞を、辻真帆さんには厚生労働大臣賞が授与されます。

子育て支援活動の表彰

少子化対策や育児子育て支援に資する諸活動を行っている個人・団体からご応募いただきました。計160組の応募の中から、活動のユニークさ、汎用性などを考慮したうえ、未来賞6団体を決定いたしました。この6団体から「NPO法人ママ・ぷらす」と「和歌山おはなしの会 語りの森」を未来大賞として選出。合計100万円の副賞を今後の活動にお役立ていただきます。「NPO法人ママ・ぷらす」には、内閣府特命担当大臣（少子化対策）賞を、「和歌山おはなしの会 語りの森」には、厚生労働大臣賞が授与されます。

女性研究者への支援

人文・社会科学分野を専攻し、現在子育て中でもある女性研究者147名の方からご応募いただきました。「スミセイ女性研究者支援」として11名の受賞者を決定。11名の受賞者には、1年間あたり上限100万円の研究助成金を最大2年間支給します。

また、表彰式を2009年2月16日（月）にホテルニューオータニ（東京）にて開催いたします。各募集事業の概要・受賞者については、以下の通りです。

【住友生命社会貢献事業『未来を築く子育てプロジェクト』概要】

主 催：『未来を築く子育てプロジェクト』実行委員会

後 援：厚生労働省

協 賛：住友生命保険相互会社

審 査 員：『未来を築く子育てプロジェクト』実行委員会

実行委員長	堀田 力氏	(さわやか福祉財団理事長、弁護士)
実行委員	池田 守男氏	(株式会社資生堂相談役)
実行委員	大日向 雅美氏	(恵泉女学園大学大学院教授)
実行委員	奥山 千鶴子氏	(特定非営利活動法人びーのびーの理事長)
実行委員	金田一 秀穂氏	(杏林大学外国語学部教授)
実行委員	吉永 みち子氏	(作家) 以上、50音順
実行委員	横山 進一	(住友生命保険相互会社取締役会長)

審査結果：

●エッセイ・コンクール

募集内容：“子育て”“子育て”をテーマとしたエッセイを、幅広く募集。

周囲の協力や創意工夫、苦勞を乗り越えたエピソード、“子育て”で気付いたこと、楽しさ、すばらしさ、喜び…を伝えるエッセイを募集。

表 彰： 内閣府特命担当大臣（少子化対策）賞

（最優秀賞の中から1点）／表彰状

厚生労働大臣賞（最優秀賞の中から1点）／表彰状

最優秀賞 5点 / 表彰状、旅行券 20万円分

優秀賞 20点 / 表彰状、図書カード 3万円分

応募数：計886点



●子育て支援活動の表彰

募集内容：より良い子育て環境づくりに取り組む“個人”“団体”を募集。

特長的な子育て支援の活動を社会に広く紹介し、他地域への普及を促すことで、子育て環境を整備し、子育ての不安を払拭することを目的としています。

応募規定： 子育て支援に資する活動をおこなっていること。

活動内容が社会に認められ、ロールモデルとなりうるものであること。

活動の公表を了承していただける“個人”“団体”であること。

日本国内で活動していること。

表 彰： 内閣府特命担当大臣（少子化対策）賞（未来大賞受賞者の1組に授与）／表彰状

厚生労働大臣賞（未来大賞受賞者の1組に授与）／表彰状

未来大賞 2組 / 表彰状、副賞50万円

（未来大賞受賞者から2組選出。副賞は未来賞と合わせ、計100万円）

未来賞 6組 / 表彰状、副賞50万円

応募数：計160の団体ならびに個人



●女性研究者への支援

募集内容：人文・社会科学分野における萌芽的な研究の発展に期待する助成。“育児”のため研究の継続が困難となっている女性研究者および、育児を行いながら研究を続けている女性研究者が、研究環境や生活環境を維持・継続するための助成金を支給。



応募規定： 人文・社会科学分野を専攻し、有意義な研究テーマを持っている。

現在、未就学児（小学校就学前の児童）を育てている。

原則として、修士課程資格取得者、または、博士課程在籍・資格取得者。

2名以上の推薦者がいること（うち1名は、従事した、または従事する大学・研究所などの指導教官または所属長の推薦が必須）。

現在、大学・研究所などに在籍しているか、その意向があること。

支援を受ける年度にほかの顕彰制度、助成制度で研究助成を受けていないこと。

（育児休業給付などは、研究助成に当たりません。）

国籍は問いませんが、応募は日本語に限ります。

表彰：「スミセイ女性研究者支援」 11名

助成金として、1年間100万円(上限)を最大2年間支給します。

支給期間は2009年4月から2011年3月までの2年間の予定です。

応募数：計147名

【第2回『未来を築く子育てプロジェクト』受賞者一覧】

■エッセイ・コンクール

(氏名・住所・エッセイタイトル、50音順、敬称略)

最優秀賞 5点

内閣府特命担当大臣(少子化対策)賞

しみず のりこ
清水 徳子 (岐阜県) 「父親の権利」

厚生労働大臣賞

つじ まほ
辻 真帆 (東京都) 「我が家は緊急保育園!？」

さとう まさたか
佐藤 真貴 (福島県) 「これから、おじさんとして」

なかつ なおこ
中津 直子 (広島県) 「娘をかわいいと思える日が来るまで」

ふるいえ しげおみ
古家 茂臣 (熊本県) 「元気な親父とじいさんを目指して」

優秀賞 20点

あらい よしゆき
新井 由行 (愛知県) 「偽装”父子家庭”」

いしざわ よしひこ
石沢 由彦 (青森県) 「空っぽの弁当箱」

いづみ りえ
伊積 利恵 (和歌山県) 「出会い」

かなやま み え こ
金山 三恵子 (兵庫県) 「パパの本音-オッパイが欲しい-」

きくかわ ま ゆ み
菊川 真由美 (福岡県) 「小さなお母さんたち」

きんじょう かずゆき
金城 和幸 (沖縄県) 「子どもとのバースデーケーキ」

こばやし み き
小林 美紀 (千葉県) 「かわいい子には旅をさせよう」

こんの よしひこ
今野 芳彦 (秋田県) 「孫心の距離」

しま ちはる
島 千春 (愛知県) 「トントンしよう」

すずき き み こ
鈴木 貴美子 (東京都) 「みんなのヒーロー」

たかはし し ほ
高橋 志保 (神奈川県) 「母と私と息子と」

たにじり と も こ
谷尻 知子 (大阪府) 「席を譲れる人」

にいくら ふ み こ
新倉 書子 (東京都) 「小さい勇氣」

のむら と お る
野村 徹 (東京都) 「男の子育てって?」

はせがわ ゆ か
長谷川 由香 (石川県) 「「がんばってるね」の魔法」

ひらはら せつこ
平原 節子 (神奈川県) 「我が家は飛び世代(?)家族」

もがわ まり
茂川 真理 (静岡県) 「大魔王からの子育てヒント」

やまだ よしこ
山田 良子 (東京都) 「パンダさんあげよ」

やまと まどか
大和 まどか (神奈川県) 「親育て~君に育てられて~」

わたなべ れいこ
渡邊 玲子 (香川県) 「どこのどなたか存じませぬが・・・」

■子育て支援活動の表彰 (団体名・住所・活動内容)

未来大賞かつ未来賞 2組

内閣府特命担当大臣(少子化対策)賞

- ・ NPO 法人 ママ・ぷらす (愛知県海部郡甚目寺町)
働くか子育てに専念するか 二者択一ではない新たな子育てを提案・実践

厚生労働大臣賞

- ・ 和歌山おはなしの会 語りの森 (和歌山県和歌山市)
活動開始から 20 年 語りだけでなく、語り手の育成や伝承あそびの普及にも尽力

未来賞 4組

- ・ ボランティアグループ あしかが子育て応援ネット (栃木県足利市)
乳幼児から学童・思春期まで幅広く子育てを応援 官民双方の情報を掲載した子育て応援ガイドを作成
- ・ NPO 法人 ^{さんばがわ}三波川ふるさと児童館「あそびの学校」(群馬県藤岡市)
古民家を子どもたちのあそび場に再生 子どもも大人もホッとする居場所を提供
- ・ 子育てボランティア「ハートフル」(福岡県遠賀郡芦屋町)
過疎の町を子育てしやすい町に 子育てフリースペース「にこりん」を商店街に開設
- ・ NPO 法人 発達障害を考える会・TRY アングル (兵庫県伊丹市)
発達障害を持つ子どもと保護者を支援 行政や企業を巻き込んだ社会環境づくりを目指す

■女性研究者への支援 11名 (氏名・所属・研究テーマ、50音順、敬称略)

^{あだち} ^{あやこ}足立 綾子 (お茶の水女子大学大学院 人間文化研究科)

古今和歌集時代(十世紀前後頃)の屏風歌 - 女性の関わりを視野に入れて -

^{いなば} ^{ちか}稲葉 千賀 (尚美学園大学 芸術情報学部 音楽表現学科)

流産・死産経験者へのグリーフケア(悲嘆援助)を目的とした音楽療法のアセスメント表と評価表の研究

^{きら} ^{ともこ}吉良 智子 (千葉大学大学院 社会文化科学研究科)

近代日本における女性美術家の連帯と戦争参画に関する研究

^{ごうだ} ^{みほ}合田 美穂 (香港中文大学 歴史学科兼日本研究学科(非常勤))

中華社会および日本における高機能広汎性発達障がい児の支援ニーズ・実態の比較と特別

支援教育・福祉の普及を目指した実践的研究

こばやし なおこ
小林 奈緒子（島根大学附属図書館）

戦後社会運動史における戦災者組織の実態と歴史的位罫 - 全国戦災者同盟と戦災者生活擁護同盟を中心に -

たざき なおみ
田崎 直美（お茶の水女子大学大学院 人間文化創成科学研究科研究院）

被占領からの復興の記憶 - フランス第四共和制期パリにおける音楽活動状況の検証

なかの ゆきこ
中野 有希子（筑波大学大学院 人文社会科学硏究科）

ナチス期における強制収容所の音楽活動とユダヤ人作曲家ヴィクトール・ウルマン ナシヨナリズムと自我の問題

のざわ あきこ
野澤 暁子（名古屋大学 文学硏究科総合人文学コース博士課程後期）

「主婦はいない」バリ島の育児生活における歌の役割 - 男性中心の音楽文化で母から子へ伝承されるもの -

パイチャゼ スヴェトラナ（北海道大学大学院 国際広報メディア硏究院）

多文化、多言語教育政策と教育現場の現状（ボリビア、ヨーロッパと日本の比較分析）

ばば わかな（東京外国語大学大学院 地域文化硏究科博士後期課程）

疫病・医療からみるドイツ社会国家の生成

はまだ みちこ
濱田 倫子（東京大学大学院 人文社会系硏究科 宗教学硏究室）

「漢代画像石」に見る古代中国の死生観について

以 上